



ここにも!?縄文人のお墓

②北小松遺跡（大崎市田尻）

大崎市田尻の丘陵から低地にかけて広がる縄文時代晩期（約 3,000 ～ 2,400 年前）を中心とする集落跡です。

過去に低地部で行われた宮城県教育委員会による発掘調査で、人骨が残るお墓や多くの貴重な遺物が発見され、重要な遺跡であると判明しました。

令和 6 年度には集落の解明に向け、これまで調査していなかった丘陵部で発掘調査を行い、お墓や道具の捨て場を発見しました。

これにより、縄文人のお墓が丘陵部にもつくりられていることがわかりました。





▲お墓（半分掘ったもの、北東から）

お墓は全長 120cm、幅 65cm の楕円形^{だ えん けい}です。深さは 8cm しか残っておらず、本来はさらに深かったと考えられます。穴の底に遺体^{い たい}を置き、胸や足元の部分に赤色の顔料^{がんりょう}（赤い粉）をまいたうえで、逆さまの土器をかぶせていたと考えられます（上写真）。



▲過去の調査で発見されたお墓と人骨（南から）

（宮城県文化財調査報告書第 255 集『北小松遺跡ほか』）

過去に低地部で発見した人骨には、胸や足元の部分に赤色の顔料がまかれ、逆さまの土器がかぶせられていたことから（左上写真・右上図）、今回丘陵部で発見したお墓も、類似した埋葬方法であったと考えられます。



▲埋葬の想定図

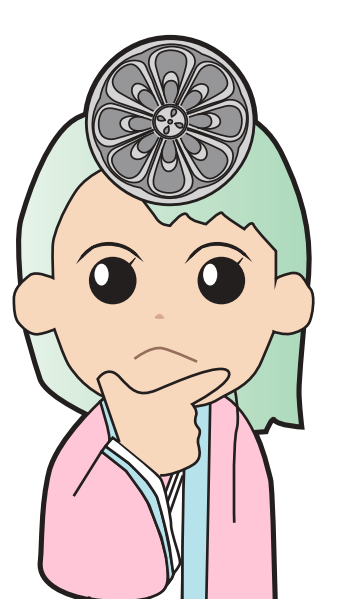
Rengemon Chat



ちょうさいんさん

骨がないのにどうしてお墓だとわかったの？

過去に低地部で発見したお墓と同じく、逆さまの土器と赤色の顔料が発見されたことに加え、穴の大きさと形が類似していること、埋葬後に穴が埋め戻されていることから、今回発見したものもお墓だと考えられます。



れんげもんちゃん